



Title	使用物のレイアウトからみた作業領域の形成パターンの分析：創作活動に求められる作業領域の特性についての基礎的研究
Author(s)	蒔苗，沢子；森，傑
Citation	学術講演梗概集，2012， 849-850
Issue Date	2012-09-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/54894
Rights	日本建築学会．本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである．
Type	journal article
File Information	AIJ2012.5404.849-850.pdf



使用物のレイアウトからみた作業領域の形成パターンの分析 - 創作活動に求められる作業領域の特性についての基礎的研究 -

正会員 ○ 蒔苗 沢子*
同 森 傑**

ワークプレイス 創作 領域
レイアウト パターン パーソナライゼーション

1. 背景と目的

本研究では、創作活動の場における使用物のレイアウトを観察し、作業領域の形成パターンを抽出することで、今後創作を目的とした空間を考察する上での一助を成すことを目的とする。

知的生産の研究としては、主にワークプレイスの研究が挙げられ、多くの既往研究でオフィス空間が主たる着目点として注目されている。しかし、知的生産に関しては単純な執務作業だけではなく、創作活動も含まれているにも関わらず、創作活動に焦点を当てた研究は多くはない。

2. 調査方法と結果

2-1 調査対象

札幌デジタル創造プラザ（ICC）^{注1)}に電話番号が登録されている団体、法人、個人の全 207 件にインタビュー調査と実測調査を依頼した。

2-2 インタビュー調査

調査対象の内、協力が得られた 45 件に対し、それぞれの基礎情報や作業内容に関するインタビュー調査を行った。

2-3 実測調査

インタビュー調査の協力者の内、許可を得られた 41 件に対して、作業を行う建築空間内の実測調査を行い、その内の写真撮影の許可が得られた 37 事例を有効数とした。

3. 分析

パーソナライゼーション^{注2)}という概念があるが、この場合に形成される領域というのは、物理的なものがどのようにレイアウトされるかによって捉えることが出来る。本研究でも創作という行為の領域を捉えるため、その作業に関わる使用物のレイアウトに着目して創作空間の作業領域の形成パターンの抽出を行う。

3-1 作業スペースの定義

建築空間内には利用者が作業をする上で主とする作業空間が存在する。本研究では主とする作業空間を「作業スペース」（以下、「作業 S」とする。）とし、インタビュー調査の質問項目「主に使用する道具」の回答の内、使用する空間が明確な作業道具を抽出し、それらが配されてある一区切りの空間と定義付け、これに該当する 33 事例を分析対象^{注3)}とする。

3-1-1 「作業スペース」と「作業補完物」の配置関係

インタビュー調査より、主に使用する道具以外にも作業を行う上で利用者が重要視している事物が存在することが明らかとなった。そこでインタビュー調査の質問項目「作業する

上での重要点・工夫点」の回答の内、具体的な作業に関する事物を抽出し、それらを「作業補完物」（以下、「補完物」とする。）と定義する。

作業に関するスペースと事物との配置関係による作業領域を観察するために、「作業 S」が単数か複数か、「作業 S」外での「補完物」の有無、の 2 つの観点から事例を分類した（図 1）。

3-1-2 「作業スペース」内の使用物の帰属関係

使用物によって作業領域の形成を観察するために、「作業 S」内の全ての使用物の移動の様子に着目した。ここでは利用者が備品のために設けたとみられる専用の場所を収納とし、使用物が収納や特定の場所に所属することを帰属とする。帰属のタイプは、A. 無帰属型：帰属先が特定できない、B. 作業内帰属型：「作業 S」内に帰属先がある、C. 他帰属型：「作業 S」以外の領域に帰属先がある、の 3 つに分類^{注4)}することが出来た（図 2）。

3-2 作業領域の形成パターンの抽出

図 1 の分類を縦軸、図 2 の分類を横軸としマトリックス法によって作業領域の形成パターンを抽出した（図 3）。事例数の多い以下の 4 パターンにおいて特徴を述べる。

【C-a パターン】：「作業 S」を 1 つだけ持ち、かつ「作業 S」内の使用物が「作業 S」外に設けられた収納に帰属する。このパターンの事例をみると、帰属先の収納が他の利用者との共有となっている場合が 6 件中 4 件を占めている。

【C-b パターン】：「作業 S」を 1 つだけ持ち、「作業 S」外に「補完物」があり、かつ「作業 S」内の使用物が「作業 S」外に設けられた収納に帰属する。このパターンに該当する事例全てに帰属先の収納が他の利用者との共有となる傾向はみられない。

図 1 「作業スペース」と「作業補完物」の配置関係

「作業スペース」と「作業補完物」の配置関係			
「作業スペース」が単数 □		「作業スペース」が複数 □□	
事例数：12 「作業スペース」外に「作業補完物」がない □	事例数：9 「作業スペース」外に「作業補完物」がある □●	事例数：4 「作業スペース」外に「作業補完物」がない □□	事例数：8 「作業スペース」外に「作業補完物」がある □□●

□：「作業スペース」 ●：「作業補完物」

図 2 「作業スペース」内の使用物の帰属関係

「作業スペース」内の使用物の帰属関係		
8事例 A. 無帰属型 □ ■	8事例 B. 作業内帰属型 □ □■	17事例 C. 他帰属型 □ □■

□：「作業スペース」 □■：帰属先 ■：使用物 ◀.....▶：使用物の移動

Analysis of Formation Patterns in Working Territory Focusing on Tools Layout:

A Basic Study of characteristics on Working Territory for Creative Activities

MAKANAE sawako and MORI suguru

[C-d パターン]: 「作業S」を複数持ち、「作業S」外に「補完物」があり、かつ「作業S」内の使用物が「作業S」外に設けられた収納に帰属する。このパターンに該当する事例は、製作、執務、試作等創作に関わるアクティビティの種類が多く存在し、それに伴って使用する備品の数も多い。

[A-a パターン]: 「作業S」を1つだけ持ち、「作業S」外に「補完物」が無く、「作業S」内の使用物の帰属先が不明確である。このパターンに該当する事例は、C-d とは逆にアクティビティの種類が少なく使用する備品の数も少ない。

4. 考察

以上の分析を踏まえ、作業領域の特徴を考察する。

同じ帰属型を示す C-a, C-b の事例において、C-a の事例だけに収納が他者と共有されているという特徴がみられた。これは、帰属先に対する個人の占有度が低く、同じ他帰属型でも自身の領域形成の意識が弱いと考えられる。一方で、「補

完物」の配置関係をみると、C-b は「作業S」外に存在し、C-a では「作業S」外に存在しないという違いがある。以上の比較より、「補完物」と「作業S」との配置関係の違いによって、自身の領域形成に対する違いがみられると考えられる。

また、C-d、A-a を比較すると、「作業S」の数と「補完物」の配置関係、使用物の帰属型が大きく異なり、使用する備品の量にも大きな差がみられる。

このことから、本研究では使用物のレイアウトに着目した分析を行なったが、備品の量も作業領域の形成パターンに影響を与える要因として存在していると推察される。

注1) 創作活動のインキュベーションを目的とし、札幌市が委託運営・管理を行う施設。

注2) 人間がある場所に滞在する時に、ある領域を形成しようとした際に発生する行為。

注3) 本研究では「作業S」が実測した空間内に存在する場合のみを扱う。

注4) 事例の分類においては、「作業S」内の全使用物の中で最も多くみられる帰属型をその事例の型とする。

図3 作業領域の形成パターン

		使用物の帰属関係		
		A. 無帰属型	B. 作業内帰属型	C. 他帰属型
「作業スペース」と「作業補完物」の配置関係	a. 「作業スペース」外に「作業補完物」がない	事例数: 4 ▲No. 27 主: パソコン/補: 机	事例数: 2 ▲No. 5 主: パソコン/補: 机	事例数: 6 ▲No. 40 主: パソコン/補: 大きなテーブル
	b. 「作業スペース」外に「作業補完物」がある	事例数: 2 ▲No. 6 主: 絵の具・コンテ・パソコン 補: 机・フィギュア	事例数: 2 ▲No. 33 主: パソコン/補: 机	事例数: 5 ▲No. 44 主: パソコン/補: 収納
	c. 「作業スペース」外に「作業補完物」がない	事例数: 1 ▲No. 1 主: パソコン・カメラ・筆記用具	事例数: 2 ▲No. 21 主: パソコン/補: パソコン	事例数: 1 ▲No. 37 主: 鉛筆・マシン/補: 机
	d. 「作業スペース」外に「作業補完物」がある	事例数: 2 ▲No. 14 主: パソコン・カメラ・三脚・筆記用具 補: パソコン・収納	事例数: 2 ▲No. 11 主: 机・傾斜台・絵の具/補: 可動式家具	事例数: 4 ▲No. 35 主: 模型制作道具/補: モックアップ
		: 「作業スペース」 : 「作業補完物」 : 使用物の移動 主: 「主に使用する道具」 補: 「作業補完物」		

* 北海道大学大学院工学院 修士課程

** 北海道大学大学院工学研究院 教授・博（工）

*Graduate Student, Graduate School of Eng., Hokkaido Univ.

**Professor, Faculty of Engineering, Hokkaido Univ, Ph.D. in Eng.